

2012年4月14日(土曜日)

# 幸福度日本一 福井県 から「希望」を発信

昨年12月に法政大学の研究チームが、都道府県ごとの「幸福度」を評価分析した研究結果を発表し、福井県が幸福度日本一に選ばれました。

また、県では将来の幸福を目指して、「希望」に関する二つのプロジェクトを進めているほか、世界一幸せな国として知られるブータン王国との交流もスタートしました。今回の県政だよりでは、幸福度日本一の秘密と「希望」について県が取り組んでいるプロジェクトを紹介します。

## 法政大学の研究で福井県が幸福度日本一に!



女の子  
(中学生)

ねえ博士、法政大学の研究発表で福井県が幸福度日本一になったって聞いたけど、どういうところが評価されたんですか？



博士

法政大学の研究では、家族、仕事、安全・安心、健康の分野で幸福につながる国の統計データを点数化して、都道府県ごとの合計点を出したんだ。実は、すべての分野で福井県は全国トップクラスなんだよ。



女の子  
(中学生)

すごいですね！特にどんなところが優れているんですか？



博士

失業率の低さや正社員で働いている人の割合、犯罪や火事の少なさ、貯金の多さのほか、出生率や未婚率、保育所の数など実に多くの分野で福井県は全国の上位なんだよ。悩みやストレスを持っている人の少なさでも福井県は全国5位だよ。



女の子  
(中学生)

へえ、あらためて福井県の良いところが分かりました。でもどうして福井県はそんなに恵まれているんですか？



博士

福井県には、昔ながらの良さがしっかり残っているからね。みんな真面目だし、働き者だ。眼鏡や繊維、電子部品などものづくりの企業も頑張っている。そうだ、きみのお宅には、お婆ちゃんやお爺ちゃんがいるのかな？



女の子  
(中学生)

はい。お母さんが働いてるから、私が小さい頃はお婆ちゃんに保育園に迎えに来てもらったり、今も晩御飯を作ってもらったりしているなあ。



博士

そういう三世代の家族のつながりがまだ福井県は強いんだね。そのことがお母さんも働けて家庭の収入も増えるし、お年寄りも孫の世話や家事をすることで生きがいや健康にもつながるんだよ。福井県はご近所のつながりも強いね。それが地域の安全・安心が高い理由にもなっているんだ。



女の子  
(中学生)

なるほど！でも博士、幸福って、やっぱり自分で「ああ幸せだー」って思えることが一番大事だと思いますが、私は幸せだって、あんまり実感がないな。不幸せだとも思っていないんだけど。



博士

そうだね。毎日同じ環境にしていると、私たちが幸せだってことは当たり前になってしまう。それを当たり前と思わずに、家族や周りの人に感謝する、そして、未来のきみ自身やきみの子供たちが幸せになるようにがんばってほしいな。



女の子  
(中学生)

じゃあ、私もそろそろ将来のことをしっかり考えないといけないですね。



博士

そうそう、将来の夢を実現するためには、一生懸命勉強したり、本や新聞を読んだり、実際にいろいろな体験をすることだね。そうやって「希望」を持って行動することの大切さを若い人たちには知ってほしいな。



女の子  
(中学生)

はい、将来の夢が実現できるようにがんばります！

## 世界一幸せな国「ブータン王国」との交流がスタート



昨年11月にブータン王国のワンチュク国王夫妻来日の歓迎レセプションに西川知事が招待され、国王夫妻に結婚のお祝いを申し上げます



王立ブータン研究所のカルマ・ウラ所長が3月に来県し、福井県と王立ブータン研究所の相互協力の覚書を締結しました

## 福井県が進める2つの「希望」プロジェクト

### 東京大学と進める「希望学プロジェクト」

東京大学「希望学プロジェクト」の約40名の専門家が、県内の地場産業・伝統芸能・社会生活などを対象に、インタビュー調査等のフィールドワークを行い、県民が将来にわたって希望を持てる地域のあり方について考えています。

#### 【調査例】

##### ○同窓会調査

福井市内の県立高校5校の同窓会の協力を得て、高校卒業後の居住地の移動実態やUターン意識、家族構成との関係などに関するアンケート調査(回答数:1,760人)を行いました。その結果、Uターン意識の高さは、福井への誇りや愛着の深さと関わりが大きいことなどが分かってきました。

##### ○地域企業調査(眼鏡産地)

眼鏡産地の変遷や海外ブランドとの競争激化など、苦境を乗り越えた軌跡について県内企業にインタビューしました。県内の眼鏡産地の規模は縮小傾向にありますが、新技術の共同開発や独自の流通経路の開拓など「個」の企業の行動が、産地に強みを生み、また地域の希望につながっていることを見いだしています。



希望学プロジェクトの研究者が県民と福井の希望について語り合うフォーラム。今年度は12月に開催を予定しています

### 「ふるさと希望指数(LHI:Local Hope Index)」研究プロジェクト

ふるさと知事ネットワークの共同研究プロジェクト(福井県がリーダー県)

このプロジェクトでは、日々の暮らしの中で「幸福」を感じながら、自分の将来や次の世代を良くしたいと願う「希望」を持った人々の「行動」を促進するため、約4,000人の全国規模のアンケート調査により、人々の「希望」につながる要素を抽出しました。

今後は、県民の皆さん一人ひとりが「希望」を持てるよう、「ふるさと希望指数」を基点とした政策づくりを進めていきます。

#### ふるさと希望指数とは

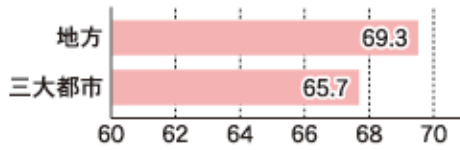
現在の暮らしに対する満足度などから得られる「幸福」だけではなく、より良い将来を実現するため、人々の「希望」につながり、「行動」によって達成できる要素を抽出したものです。(5分野20要素で構成されます。)

#### ふるさと希望指数(希望につながる主要素)

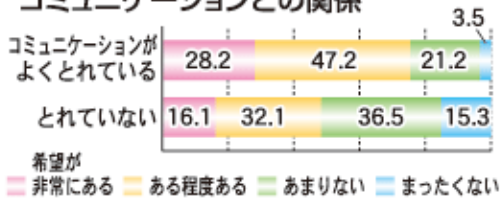
仕事	正規の職員・従業員として働いている など
家族	家族でコミュニケーションがとれている など
健康	健康の維持に努めている など
教育	子どもが夢や目標を持って物事に挑戦している など
地域・交流	社会貢献活動に参加している など

「行動」を起こしている人ほど「希望」を持つ割合が高い

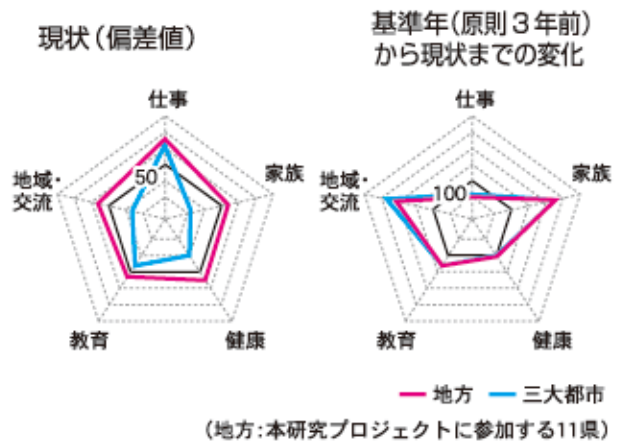
### 希望を持っている割合



### 「希望」と家族間のコミュニケーションとの関係



### ふるさと希望指数を国などの統計によりグラフ化



何かを実現したいと強い気持ちで動き出す。そこに希望は生まれます。福井の良さを守るのも行動。新しい福井をつくるのも行動。福井をはじめ、地方には大都市よりも希望の種がいっぱいあります。その芽を伸ばし、全国や世界に希望を広げてほしいです。

東京大学社会科学研究所 希望学 研究代表者 教授 玄田有史

## 幸福度日本一、ふるさと希望指数が国からも注目



幸福度に関するパネルディスカッションで福井県を紹介する満田副知事

福井県の幸福度の高さや「ふるさと希望指数」の研究が国からも注目され、3月に国が東京で開催した「幸福度に関するパネルディスカッション」に満田副知事が参加し、福井県の暮らしやすさや「ふるさと希望指数」を発信しました。

## 地方の12県の連携による新政策づくり

地方も都市も日本全体が活力を高め、国民一人ひとりが希望を持てる社会の実現を目指した政策づくりを行うため、平成22年1月に西川知事の提唱の下、「自立と分散で日本を変えるふるさと知事ネットワーク」を設立しました。

### 『地方から日本を変える政策集団』

新しいふるさとの創造に向けて、「自立と分散・連携」を掲げ、政策のイノベーションを進めるとともに、そのために必要な政策の転換を国に積極的に提言するため、共に行動する政策集団です。



昨年8月に奈良県で開催したふるさと知事ネットワークの知事会合で地方発の新政策などについて議論を行いました



地方同士が『Local and Local』でつながり  
『地方知 (Local knowledge)』を集結します

参加県：青森県、山形県、石川県、福井県、山梨県、長野県、  
三重県、奈良県、鳥取県、島根県、高知県、熊本県の12県



この記事に関するお問い合わせ

福井県総合政策部政策推進課 〒910-8580 福井市大手3丁目17番1号  
TEL 0776-20-0226 FAX 0776-20-0623 Eメール [seisaku@pref.fukui.lg.jp](mailto:seisaku@pref.fukui.lg.jp)

希望学プロジェクトの詳細内容はホームページをご覧ください

Google 希望学プロジェクト

Google検索

ふるさと希望指数の詳細内容はホームページをご覧ください

Google ふるさと希望指数

Google検索

BACK